

沼津高架PIプロジェクト 勉強会(沼津駅周辺地区)でのステップ2に関するとりまとめ

●勉強会（ステップ2）のとりまとめについて

勉強会（沼津駅周辺地区）では、ステップ2において2回に渡り「地域づくりの目標」について議論してまいりました。これまでの勉強会での議論の整理として、本資料「勉強会（沼津駅周辺地区）でのステップ2に関するとりまとめ」を作成しました。本とりまとめは、原地区勉強会での検討結果とともに、今後、県として「地域づくりの目標」を確定する上での一つの判断材料となります。

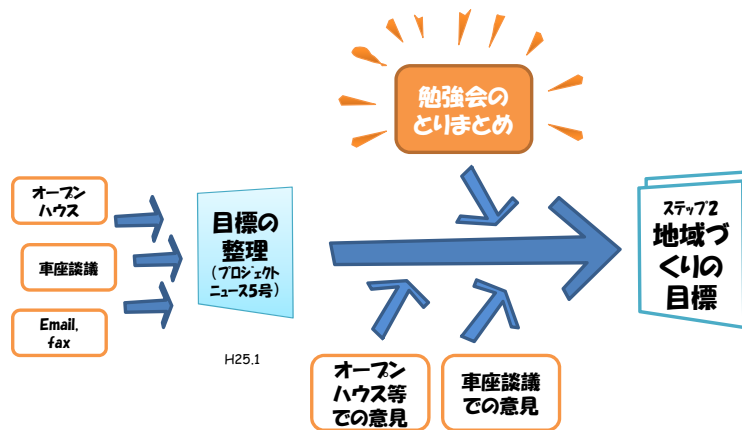
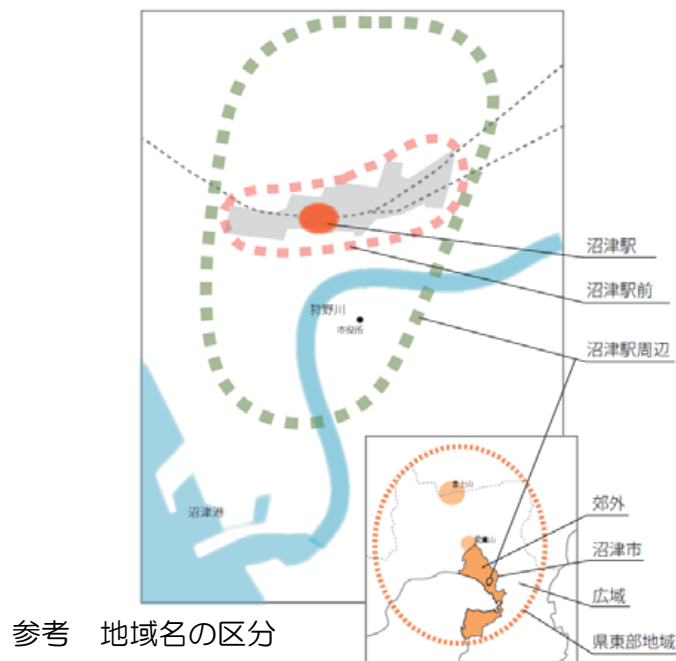


図 ステップ2における目標設定までの流れと本とりまとめの位置づけ



参考 地域名の区分

I. 沼津駅周辺の地域づくりの目標に関する議論

1. 『暮らし』に関する議論

「1-1 誰もが支えあえる街に」について

- ・多世代から選ばれる居住地としていくことが必要。

現在、沼津駅周辺での人口は減少傾向にあるが、将来は、各世代に魅力ある地域として定住人口の増加を目指したい。駅周辺に集まって暮らせるコンパクトな街を目指したい。

- ・働きながらも子育てしやすい環境が大切。

子育て世代は生産年齢層であるとともに地域の担い手でもあることから、駅周辺や駅前での保育施設や学童・児童館など就学児の居場所を充実させることや、各世代が集まって暮らすことで世代間で子育てを支援できる環境とすること、また、子育て世代に対する経済的な優遇策、雇用対策を充実させるなど、働きながら子育てしやすいまちにすることが必要だ。

- ・教育の充実など若い世代が住みたいと思える環境が重要。

また、高校や大学、専門学校など教育が充実していることで、青少年が集まり、若い世代が住みたいと思えるまちになるといい。

- ・高齢者にとっての“居場所”が必要。

都心暮らしへの需要が高いと思われる高齢者の定住を促すため、沼津駅周辺については、歩いて便利に暮らせる街とすることに加え、世代間交流の機会など、地域コミュニティの中に“居場所”があることが重要だ。

「1-2 生活に必要な施設が揃い便利な暮らしを」について

- ・住民にとって魅力的で楽しく過ごせる街なかにしていきたい。

広域から人の集まる施設だけがあればいいのではなく、先ずはそこに住む各世代の人が魅力を感じられる街であることが重要だ。公共施設、商業施設など様々な機能があることで、街中で楽しく時間を過ごせる街であるとよい。

例えば、歩いて行ける範囲に、市役所や体育館、文化会館、図書館、児童館など、重要な公共施設や医療施設があることや、若い世代が集まったり遊べる場所があること、また商業空間については、インターネットで買い物ができる現在であるからこそ行って楽しくなるような商業空間であることが大切だ。

「1-3 魅力のある都市空間に」について

- ・緑と水辺に親しむことができ風を感じられる場所にしたい。

沼津駅周辺は街中に緑が少ないと感じるし、車社会になったこともあり、散策する人が少なくなったのではないかと感じる。しかし、狩野川や沼津港、蛇松緑道など散策するのにちょうどいい資源がある。これらを活かした散策路や公園など、住む人や観光客が、緑と水辺、風を感じながら散策を楽しめ、子どもたちがのびのびと遊べる空間があるといい。

また、駅前など沼津の玄関口となる場所にも緑や水辺のある広場・公園など、イベントを開催したり、ベンチなどで休めるような場所があるといい。

2. 『交流』に関する議論

「2-1 広域から人が集まる街に」について

- ・沼津ならではの特色を出して広域との交流を盛り上げることが必要。

商業だけに頼るのではなく、文化・スポーツ、医療、福祉、教育、観光など各活動の拠点となるような施設を配置するなど、県東部地域からだけでなく海外からも人が集まる特色のある街になるとよい。

また、広域から人が集まるためには、魅力的な広場や大規模施設など、多くの人が集まり溜まり交流できる空間を用意することや、駅周辺へのアクセスをスムーズすることも必要ではないか。

「2-2 かつての賑わいを」について

- ・コンパクトに集めることで商業も回るのではないかと。

歩いて行ける範囲に生活に必要な施設が集中し居住者も増えれば、商業も上手く回るようになるのではないかと。商店街の中に生鮮食料品店が立地できるような賑わいがあれば、街全体の活気を生むのではないかと。

「2-3 観光・食のポテンシャルを活かして」について

- ・観光資源の発掘と情報発信が大切。

沼津駅周辺には、狩野川や香貫山、沼津港など観光資源が多くある。また、中央公園には旧沼津城跡であるという歴史的背景があるし、狩野川ではかつてボートレースが行われていた。現在あるイベント等も含めて、観光資源をもっと発掘し、魅力づくりのための戦略を持ち、駅周辺の観光を一体的に情報発信することが必要だ。特に、「魚」や「食」を使って集客し、沼津港に集まる観光客が街中にも来るようにしたい。

さらに、伊豆、熱海観光のハブとして沼津駅の拠点機能を強化したい。そのためには、駅南口にも観光バスが着けるなどの改善が必要だ。

3. 『産業・雇用』に関する議論

「3-1 新たな産業とビジネスを」について

- ・これからの時代に合った新しい産業の振興を期待したい。

これまでのように物販だけに頼るのではなく、これからの時代に合った新たなサービスを提供することが必要だ。こうした産業が活性化し新たな雇用を生み出せるとよい。例えば、医療産業や研究機関の誘致が、関連企業の立地の呼び水になるなど、既存企業との新たな連携を生むなどの視点を持った産業振興を期待したい。

「3-2 商売をしたくなる街に」について

- ・居住者も広域からも人が集まることで商業が回るのではないか。

将来的に住宅やオフィスがコンパクトに集まった状況になれば、居住者や勤め人がまち中に溢れるようになり、商業活動も立地しやすくなるのではないか。

沼津駅周辺では、郊外のショッピングセンターにはない魅力を持った商業空間が必要だ。

4. 『交通』に関する議論

「4-1 広域からのアクセスのよい地域に」について

- ・広域からのアクセスが重要。

周辺の幹線道路が整備されれば、三島とのアクセスが向上し、広域から沼津を訪れる人を増やせるのではないか。ただし、広域から人が集まるためには、交通アクセスだけでなく、そもそも沼津に魅力をつくる必要がある。

また、現状は車社会であるのだから、駅前への自動車で来やすくとめやすいことも重要。

「4-2 駅周辺の自動車交通をスムーズで安全に」について

- ・戦略的な道路ネットワークが必要。

地域全体の道路ネットワークを戦略的な視点で捉えることが必要だ。沼津駅の南北交通の渋滞については早期に解消してほしい。沼津駅周辺全体の南北交通の改善の遅れが市の発展を妨げている一因となっているのではないか。

「4-3 街なかを歩いて楽しい」について

- ・歩行者優先のまちを目指すことが大切。

歩行者が優先される空間が十分にあり、歩いて用を足せる便利なまちを目指すことで、賑わいを生み出すことができるのではないか。高齢者や車いす、ベビーカーでも移動しやすいようにバリアフリー化を図ったり、楽に道路を横断できるようにすること、自動車が少ない通りを増やすなど、歩いて暮らせることを重視したコンパクトシティの実現を目指したらよい。このことで、居住者も増え人も集まるのではないか。また、沼津駅の南北を行き来する歩行空間については、特

に、車いすの人でも安全に行き来できることが必要だ。

「4-4 自転車で快適に移動できる」について

- ・自転車でスムーズに移動でき駅へのアクセス性の向上が重要。

駅南北や商店街など自転車で走れない道路があるが、自転車が通行できる道路のネットワークを拡充するなど、街なかを自転車でスムーズに移動できれば、周辺からもっと人が集まるのではないか。また、駅前に駐輪場やバイク置き場を充実させて、自転車やバイクでのアクセス性を高めることが重要だ。

「4-5 公共交通が便利に使える」について

- ・高齢化社会では公共交通が重要。

公共交通については、バスのサービスや需要が減っているようでもあるが、今後の高齢化を踏まえると、周辺地域から駅の南口・北口に直接アクセスできるように、バス等の公共交通を充実させ、人が集まりやすくすることが重要だ。また、近隣都市間との交流を生み出すという視点からも、鉄道やバス等の公共交通網が充実しているといい。

5. 『防災』に関する議論

「5-1 災害リスクに備えたい」について

- ・地震や津波、水害への対策を強化したい。

沼津駅周辺の橋や中心市街地の老朽化した建物は、耐震性があるのか、また、津波で壊れないか心配だ。さらに、水害についても、道路だけでなく住宅地での被害が心配であり対策が必要ではないか。

「5-2 いざ災害が起きたら避難できる」について

- ・災害時にスムーズに避難できることが大切。

災害時の避難や、救急や消防車両の走行がスムーズにできるのか、道路ネットワークを検証する必要があるのではないか。また、民間施設の避難ビル化や避難のための広場など、災害時の避難場所となる空間が必要なのではないか。

津波発生時の避難については、駅の南側市街地と北側市街地では危機感に差があり、いざという時の避難に支障が出ないか心配であり対策が必要ではないか。

Ⅱ．広域的な地域づくりの目標に関する議論

1.『広域的な拠点』に関する議論

「1-1 広域的な拠点地域に」について

- ・拠点地域としての新たな魅力が発掘・創造されることを期待。

関東圏と中京圏の中間に位置している県東部地域は、箱根や伊豆を範囲に含めて歴史や文化を大切にしたい、独自の文化圏をつくるという視点が必要ではないか。

沼津市は、商業や交通の面からは既に拠点性を失いつつあり、今後は、自然、文化、教育、エンターテインメント、医療、食などをテーマにした地方都市ならではのコンセプトに基づいて、新たな魅力のある拠点を創り出す視点が重要だ。

このような拠点性を持つことができれば、関東圏や中京圏からも人が集められ、商業へも好循環が生まれると期待する。

「1-2 地域でうまく連携して」について

- ・地域が相互に個性を活かした連携が重要。

拠点性を形成するには市町村の枠を超えて、各地域が相互に必要な機能を分担し、補完しあうことが必要だ。新幹線停車駅のある三島、がんセンターのある長泉、企業団地のある裾野、観光の拠点性を持つ御殿場・伊豆・箱根など、周辺の市や町との連携を図ることで、沼津ならではの魅力を引き立てていけるとよい。

2.『交流』に関する議論

「2-1 交通の要衝として」について

- ・公共交通や新たな交通拠点を活かしたい。

近隣都市を相互に結びつけられるように、公共交通網を充実させる必要があるのではないかと。

新東名のサービスエリアと地域との関係を密にして、周辺地域との交流や経済の活性化を図る視点が必要だ。なお、新東名のサービスエリアが活況を呈しているのは一時的なものであるかも知れないので、頼りすぎてはいけないのではないかと。

「2-2 モノの交流拠点として」について

- ・物流の拠点を沼津の活性化に活かしたい

スマートインターや東駿河湾環状道路などの交通基盤を活かした大きな物流拠点があれば、企業誘致できるのではないかと。一方、小さな物流の拠点としては、沼津駅、新東名サービスエリア、グルメ街道や、三島、清水町など郊外も含めて分散している現状を活かす視点が必要ではないかと。

3.『戦略』に関する議論

「3-1 早く結論を」について

- ・地域づくりの方向を絞り込むことが重要。

どのような対策を行うのかを早急に決めることが重要であるが、それにあたっては、まずは地域づくりの方向をひとつに絞り込んでビジョンを明確にしていくことが重要だ。

「3-2 すぐに効果が現れる対策を」について

- ・すぐに効果が現れる対策が必要。

沼津駅南北の自動車・歩行者・自転車交通の課題解消については、早く効果が現れるような対策が必要だ。工事期間が長びくと、商工業などの産業が衰退し経済状況がさらに悪化しないか心配だ。

また、現在、区画整理事業のために空地が目立つ富士見町については、一刻も早く日常生活に支障をきたしている現状を改善し、定住人口と賑わいを取り戻せるようにしてほしい。

「3-3 長期的視点から抜本的な対策を」について

- ・長期的な抜本策も、途中段階の対応策も大切。

商業の活性化にとっても抜本的な対策は欠かせないことだが、途中段階の対応策も大切だ。

「3-4 効果的で戦略的な投資を」について

- ・タイミングよく民間活力を引き出す戦略が必要。

東駿河湾環状道路の整備のタイミングを上手く活かし、波及的な効果を捉えた対策を打てるとよい。戦略性を持って民間投資を引き出すことが必要だ。

「3-5 市民と民間と行政が協力して」について

- ・市民と民間と行政の協力のための基盤が必要。

市民や地権者、民間、行政が協力し合って地域づくりを進めていくためには、地域づくりを担う組織や拠点があるといい。また、県には関係機関のなかで調整役としての役割やリーダーシップを発揮する役割があるのではないかな。

4.『財政と事業効果』に関する議論

「4-1 沼津市財政に無理がないように」について

- ・事業費が増え他の予算を圧迫しないか心配。

文化や福祉、教育など、他の政策に財源が回らなくなるのではないかと懸念している。公共事業には当初の見込みよりも多くの事業費がかかる例もあることも心配だ。

- ・様々なリスクや事業性を踏まえた判断が必要。

考え得るリスクや対策費を比較して判断を行う必要があるのではないか。また、同じような効果が期待できる対策であれば、事業化しやすいかどうかという観点からも比較したい。

「4-2 大きな費用に見合った対策を」について

- ・小さな投資でより大きな効果を生む対策となることが重要。

対策を行うにあたっては、公共投資が必要なのか、民間が行うべきかを十分に見極め、小さな費用で大きな効果を生むことを考える必要がある。

また、民間からの間接投資も含めて、大きな効果を生む可能性のある対策かどうかという視点を持ちたい。そのためには、投資を上回る経済効果を引き出そうとする戦略性が必要である。波及効果についても明確な検証が必要である。

Ⅲ. 進め方に関する議論

1. 『PIの目的』に関する議論

将来の沼津市をもっと誇れる街にしたいと誰もが思っており、そのためにどうするのかを話し合うことがPIプロジェクトの目的だろう。

ステップ2では、沼津駅周辺の街が快適でよりよくなることを共通の目標として、市民である私たちが建設的な議論を積極的に行いたい。

2. 『対話の効果』に関する議論

様々な考えを持つ参加者が集まる勉強会では、それぞれの立場を理解し、将来に向けて建設的な議論を行う場として期待する。

また、原地区の勉強会が別途設置されているが、原地区との整合・調整が必要だ。

3. 『検討プロセス』に関する議論

鉄道高架事業や総合整備事業に関するこれまでの経緯を共有した上で、事業の必要性や効果、問題点について、他事例や客観的なデータを参照して議論を進めていきたい。

また、勉強会参加者の中には、これまで高架事業や沼津駅周辺のまちづくりについて研究してきた人もいるので、参加者間で情報提供し合う機会があるといい。

ステップ2では、沼津駅前だけでなく沼津駅周辺、沼津市全体を見据え、地域にどのような役割が必要なのかといった議論が必要だ。その上で、次のステップからは、鉄道高架をどうすべきかどうかの議論を進めていきたい。

4. 『検討体制』に関する議論

勉強会の参加者については、年代や性別等に偏りが見られるのが残念である。勉強会以外の方法でも若い世代や女性など異なる属性の意見を集めたり、インターネットを使って市民が相互に意見交換を行うなど、より幅広い意見収集を行うてはどうか。

また、勉強会の議論のテーマ、特に地域の将来像に関する議論は、沼津市政にも関わることであり、沼津市からの参加やPIプロジェクトのプロセス・結果の尊重が望まれる。

IV. ステップ2に関する戦略課題

沼津駅周辺での勉強会における目標に関する議論では、暮らし、交流、産業・雇用、交通、災害に関する課題がそれぞれ単独に解決されればよいのではなく、それらが相互に作用しあって好循環を生み、総体として機能することで、課題解決や目標達成すべきことが様々な角度から指摘されました。

これらを次につながる形で整理することを意図して、今後、行政や民間や市民が協力して進めていかなければならない『地域づくりの4つの戦略課題』として追加的に整理しました。

●地域づくりの戦略課題①：駅周辺の賑わいを創り出すために

駅周辺の賑わいは、商業活動だけで実現されるのではなく、普段から多くの人が集う状況があって成り立つものであり、このためには、多くの買い物客や来街者が頻度高く集まることはもとより、普段からそこに様々な世代の様々な人々や家族が住まい、日常生活を営んでいるとともに、多くの従業者が毎日働きに来るような地区であることが必要なのではないのでしょうか。

●地域づくりの戦略課題②：多様な産業と雇用機会を

従業の場として、居住者の生活を支える商業や各種サービス、教育や医療や介護などの公益的分野などの基礎的な産業の他、医療や福祉などに関わる新たな産業分野、観光や食に関わる分野など、多様な産業の集積を図るとともに、それらが新たな雇用を創出し、居住者の増加や従業者の集中につながる必要があります。従業者にとって魅力のある都市であれば人材確保の面でもプラスの効果があるため、企業への動機付けにもなるのではないのでしょうか。

●地域づくりの戦略課題③：交流を支える移動性を

賑わいを生む地区となるためには、沼津駅を中心に、歩行者の移動や滞留のための空間が充実し、また、公共交通が上手く結節することで、様々な世代の人々が安全で快適に暮らすことができ、そのことで商業や多様なサービスが立地し、それとともに、多くの買い物客や観光客などの来街者や通勤者が周辺や広域から容易にアクセスでき交流できるような戦略が必要ではないのでしょうか。

また、駅周辺で住宅や商業施設やオフィスが集積することを考えると、駅周辺へ集中する物流交通や業務交通が円滑に循環できることが大切です。特に懸案の南北通路については、通過交通も集中していることから、通常時の移動性を高めるだけでなく、バス等の公共交通の円滑化や、緊急時の交通についても問題が生じないようにすることが必要ではないのでしょうか。

●地域づくりの戦略課題④：安心で安全な地域に

居住地や企業の立地場所として選ばれる地域となるためには、基本的条件として、

地震や津波災害への備えがなされ、居住や企業立地における不安感が解消されている必要があるのではないのでしょうか。堤防の整備だけでなく、沼津駅周辺の建物や橋梁など施設の老朽化対策や、津波災害時の避難ビルとなる堅牢建物に更新していくことも考える必要と思われます。また、災害時のスムーズな避難のために、信頼できる避難場所と避難経路が確保されていることが重要ではないのでしょうか。